「秋田県消防広域化推進計画(案)」に関する意見募集の結果について

県では「秋田県消防広域化推進計画(案)」について御意見を募集しておりましたが、その結果は次のとおりです。
貴重な御意見をお寄せいただき、ありがとうございました。

1 意見募集の期間

令和7年1月20日(月)から令和7年2月19日(水)まで

2 意見の状況

意見書等の数:3通 / 具体的な意見の数:19件

3 寄せられた御意見と考え方・対応

意見(3通)については、「秋田県消防広域化推進計画(案)」に関連する内容についての御意見(概要)とこれに対する県の考え方について記載します。

番号	該当箇所等	意見等(要旨)	県の対応・考え方等
1	全体	旧計画との違いは何か? 計画実現の見込みはあるのか?	今回の計画では、消防広域化重点地域及び中心消防本部を指定したほか、高機能消防指令センターの共同運用開始時期を明記するなど、広域化に向けより具体的内容を盛り込みました。今後は計画を基に、広域化の実現に向けて各消防本部や関係機関との協議を進めてまいります。
2	第1 市町村の消防の広域化の推進に関する基本的な事項	国の基本指針による広域化の推進期限(R6.4.1~R11.4.31)と計画(R7.4.1~R12.3.31)の期間が異なる。 ①基本指針との整合は図られているのか? ②広域化後の国からの財政支援措置は間に合うのか?	①基本指針を踏まえて次期計画を議論するため、期間が異なります。 ②令和11年4月1日までは現在の支援措置を活用し、令和11年4月1日以降は国へ支援措置継続を要望してまいります。
3	第2 市町村の消防の現況と将来見とおし	「五城目町消防本部」の広域化の必要性についての考えは?	五城目町消防本部は、特定小規模消防本部として広域化を推進する必要があると認識しております。地元のコンセンサスを得て、広域化の議論に積極的に関わられるよう、必要な情報を提供してまいります。
4	第3 消防の連携・協力の推進	高機能消防指令センターの共同運用については、今回の計画の中で検討・協議するのは時期尚早ではないかと感じる。	通信指令設備の耐用年数等から、各消防本部において更新作業を進めているところですが、本計画(案)では、各消防本部でおよそ10年ごとに機器更新が行われている実情を勘案し、多くの消防本部が更新時期を迎える(又は近い)、令和18年度の指令共同運用を目指すこととしているものです。
5		高機能消防指令センターの共同運用については、先行地の事例をよほど研究していかないと、前項の全県一区も含め、軽々には運用できないものとする。	他自治体での取組を先行事例として調査・研究してまいります。

番号	該当箇所等	意見等(要旨)	県の対応・考え方等
6		なぜ高機能消防指令センターの共同運用開始が令和18年度なのか？	通信指令設備の耐用年数等から、各消防本部において更新作業を進めているところですが、本計画(案)では、各消防本部でおよそ10年ごとに機器更新が行われている実情を勘案し、多くの消防本部が更新時期を迎える(又は近い)、令和18年度の指令共同運用を目指すこととしているものです。
7		現在の広域化計画策定後、消防指令センターの共同運用に向け、インターフェイス構成等の共通化等、県より積極的な働きかけは行っていたのか？	インターフェイスの標準化につきましては、国の「消防指令システムの高度化等に向けた検討会」の中で検討が行われており本年度中に標準仕様書が公開予定となっております。今後はこれに準拠した仕様にて整備が進む予定です。
8		県内の消防本部がそれぞれの事情で比較的高額な予算を計上し通信指令設備更新を進めているのは、各地域の実情に合わない広域化計画には相容れない表れかとも思慮される。	通信指令設備の耐用年数等から、各消防本部において更新作業を進めているところですが、本計画(案)では、各消防本部でおよそ10年ごとに機器更新が行われている実情を勘案し、多くの消防本部が更新時期を迎える(又は近い)、令和18年度の指令共同運用を目指すこととしているものです。
9		「連携・協力」について、本部同士でお互いに出来ることに取り組むべきであり、広域化の計画に盛り込まなくても、実行できることはあるのではないか。	ご意見として今後の参考とさせていただきます。
10	第4 将来の広域化のあり方	「広域化は消防署所の統廃合や消防職員の削減を目的とするものではない」との記載を「～削減をしない」とすべき。	消防署所の統廃合や消防職員の削減を目的とするものではありませんが、消防署所の適正な配置を検討した結果、統合・削減することについて、計画で制限するものではありません。
11		全県一区広域化が最終形態であるならば、いつの発足を目指すのか、計画に記載すべき。	検討会において、最終的な目標を「全県一区」とすることについては合意が図られましたが、明確な時期までは定めることができておりません。「全県一区」を目指しつつ、隣接地域での広域化など、消防力を維持・強化していくための段階的な広域化も併せて検討してまいります。
12		県内を3エリア(県南、中央、県北)程度に広域化し、エリア毎に高度な消防車両、消防吏員を充実させたほうが面積が広い秋田県では部隊の運用がしやすいのではないか。	「全県一区」を将来のあるべき姿としながら、広域化対象市町村の組み合わせとして、全ての市町村を検討対象とし、他の組み合わせや一部の市町村による広域化の可能性も十分考慮することとしていることから、ご意見として今後の参考とさせていただきます。
13	第5 自主的な市町村の消防の広域化を推進するために必要な措置	男鹿地区と湖東地区の広域化については、係わる人と機関がそこに向けて進むことができるよう、高度指令センター共同運用と同様に「県の判断」で、いつまで発足なのか期限を計画に盛り込むよう提案する。	国の指針により、都道府県は推進計画において、自主的な市町村の消防の広域化を推進するために必要な措置を定めることとされており、具体的には下記のとおり示されております。 ① 広域化を推進するための体制の整備 ② 住民及び関係者に対する情報提供、普及啓発等 ③ 各市町村に対する情報提供、相談対応体制の確保、職員の派遣及び財政支援等 ④ 関係市町村間の協議の積極的な推奨、仲介、調整等 県の役割は上記のとおりのため、県の判断で広域化の期限を盛り込むことは困難ですが、上記内容を踏まえ関与してまいります。
		広域化について県が積極的に協議に参画すべきである。	国の指針で示された、都道府県の役割(上記のとおり)を踏まえ積極的に関与してまいります。

番号	該当箇所等	意見等(要旨)	県の対応・考え方等
14			
15	第8 おわりに	「秋田県通信指令共同運用検討会(仮称)」を令和7年度中に設置とあるが、「秋田県消防広域化協議会」でよいのではないか。	ご意見として今後の参考とさせていただきます。
16		高機能消防指令センターの共同運用について、各年度で何をなすべきなのかのロードマップを計画に盛り込んでおくことを提案する。	計画には記載しておりませんが、「秋田県消防広域化検討会」におきまして事務局案を提示しております。次年度以降事務局案を元に検討を進めることとしております。
17		国に対して消防を府県機関とするよう法改正の申し入れや要望を出していただくよう提案する。	ご意見として今後の参考とさせていただきます。
18	その他	県内各本部が参集する訓練が少なく、「横の繋がり」が希薄であることが消防本部間の合併の機運が高まらない遠因ではないか。	ご意見として今後の参考とさせていただきます。
19		消防職員や他の全ての職業を無試験か365日オンラインによる試験で採用してほしい。	ご意見として今後の参考とさせていただきます。